

令和5年度 第1回長門市介護人材確保協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年8月29日（火曜日）13時30分～15時30分
2 場 所 長門市市民活動支援センター 2階会議室1・2
3 出席者 別添委員名簿のとおり
4 議 事

(1) 外国人介護人材の受入と活躍について

- ・市内事業所の外国人人材の受入の取り組みについて説明を行う。

(2) 介護人材確保に関する他市の取組状況について

- ・県内他市の介護人材確保に向けた取組状況について説明を行う。

(3) 令和4年度介護人材確保に向けた取組報告について

- ・介護人材確保に向けた取組として、市内高校に介護の仕事啓発のリーフレットを配布し、介護職の理解促進を行った。
- ・令和4年度から新たに開始した奨学金返還補助制度について、令和4年度実績が1件であったため、令和5年度から制度の拡充を行った。
- ・新たな常用労働者を雇い入れ、雇用機会の拡大に対して補助を行う、長門市地域雇用創出事業補助金の説明を行う。
- ・NPO法人つなぐが主体となって、6月に長門市日置B&G海洋センター体育館で就職フェアを行った。これまでの参加対象者は高校生であったが、今回はどなたでも参加可能であったため、親子で参加されている方もいた。

(4) 人材確保に向けた現状と今後の取組について

- ・いろいろな業種で人材が不足しており、長門全体を発展させるためには、バランスが必要だと思う。働く方が選ぶので、介護の職場がどんな感じなのか理解をしてもらう機会を作る必要があると思う。
- ・採用活動について、福祉を学び実習を踏んで自分の気持ちの中で福祉をやってみようとか、ちょっとできるか分からないけど福祉の仕事をやってみようと思っている専門学生や専門学校等を卒業した人達に働きかけをしている。しかし、県外の人が多く、まず長門市で働くという気持ちに向けるのがなかなか難しい。奨学金返還補助制度は、長門市で働くことに対して前向きにさせるアドバイスになると思う。
- ・高校や大学、専門学校に訪問をして採用活動を行っており、今年若い人が就職したが、これまでお年寄りと生活した経験がなく、何をしてあげたらいいのか、何を望んでいるのか気づけないことがあり、コミュニケーションもどういう風にとったらいいのか分からない様子だった。
- ・実際に若い人が、すぐに訪問介護で働くのは難しいと思うが、そもそも長門市に若い人がいなくなってくると、若い人がいない中で、介護の仕事に興味がある人も少なくなり、

手詰まり感がある。どうやったら若い世代から介護に目を向けてもらえるのか。介護の仕事を選んでいる人は何かしら介護に関わるきっかけがあったと思う。きっかけを作らないと、介護の仕事は選ばれないと思う。

- お年寄りとのコミュニケーションについて、私達が子供の頃は、介護施設などでイベントがあり、参加していたと思うが、最近は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、イベントとかも行われていない。若い人の中には介護施設の様子を知らないまま就職する人もいると思う。
- 市内の高校生の中には、市内での就職を考えている人がいるので、そうした人達に介護の仕事についての情報提供ができればいいのではないかな。
- いくら求人を出しても状況は変わらない。長門市全体で取り合いになっている。
- 求人を出しても人が来ないという現状の中、今から先、5年後、10年後に事業の継続ができるか不安はすごくある。長門市自体の人口が減少している中で、介護の仕事を選んでもらう。また、市外から長門市に働きに来たいと思える、それを作っていくことは並大抵のことではないと思う。これから何をしていかないといけないのか、何が優先なのか、よく考えないといけない。
- ホームページや SNS を活用して、介護施設の中の様子が分かるようにして、内容も定期的に更新をしている。面接の問い合わせもあり、効果があると感じている。
- 人材確保については、ずっと苦労しており、いろいろな広報誌やホームページに求人を掲載したりと、いろいろなことに挑戦している。しかし、70代のヘルパーが多い中、ヘルパーとして働く人がいない。採用活動の見直しを行い、人材育成も視野に入れた人材確保も必要と考えている。
- 人口減少について、これまでの64歳以下の人口減少に加えて、65歳以上の人口も減少しており、2025年問題がありますけど、長門市において人口減少はどんどん進むと思われます。昨年の出生数は104人となっており、一昨年の142人を下回っております。
- 本当にいろいろな業種で人材が不足しており、市役所自体も採用がなかなか厳しい状況です。その中で介護分野の人材確保も厳しい状況で、これをやったら人材が確保できるというような特効薬はありませんが、この協議会の中で、何か新しい取組的なものが考えられたらいいなと思っています。
- 人材確保について、職場の様子ホームページに掲載したり、高校や専門学校等に訪問されていると聞きましたが、もっと介護の仕事についてアピールをして、大事な仕事なんだと伝えて行く必要があると思います。そして、子どもでなくても、親に届けばまた違うのかなと思います。